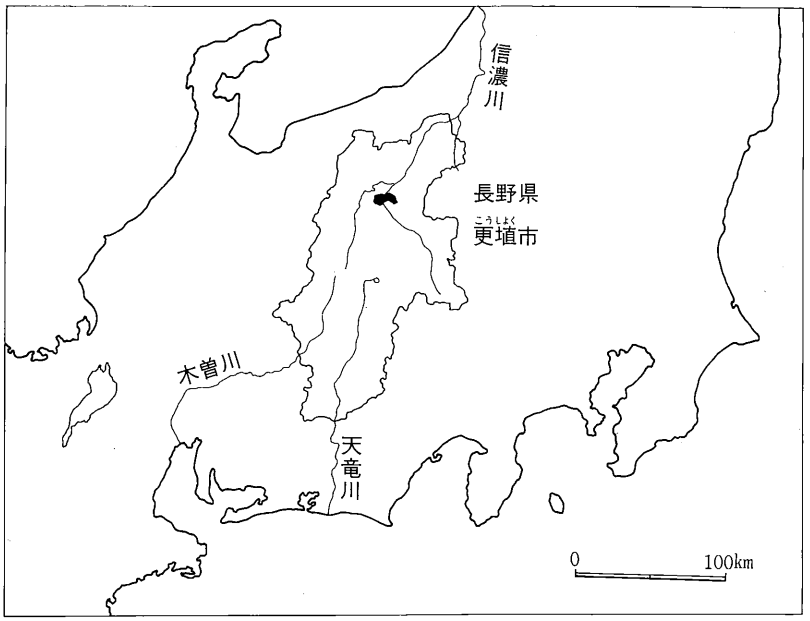
長野県更埴市

屋代遺跡群　北中原遺跡II

――市営住宅屋代団地建設に伴う発掘調査報告書――

1988

更埴市教育委員会
更埴市遺跡調査会



目　次

目次　例言

I　調査の概要……1

II　調査の経過……2

III　遺構と遺物……3

IV　まとめ……5

図　版……6

例　言

1　本書は、昭和62年5月21日から6月12日の間に、市営住宅屋代団地B棟の建物に先だって実施された発掘調査報告書である。

2　本書の編集及び執筆は、調査担当者の佐藤信之が行った。

3　本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて更埴市教育委員会に保管されている。

4　本調査関係の資料には、“KNHII”と表記されている。

Ⅰ　調査の概要

1　発掘調査委託者　更埴市（担当　建設課）

2　発掘調査受託者　更埴市遺跡調査会

3　発掘調査実施者　更埴市教育委員会・更埴市遺跡調査会

4　発掘調査場所及び土地の所有者　更埴市大字屋代字北中原937－1　更埴市

5　発掘調査遺跡名　屋代（やしろ）遺跡群　北中原（きたなかはら）遺跡　（市台帳No.31－19）

6　調査の目的　公共事業　市営住宅屋代団地建設に伴う当該遺跡の記録保存

7　調査期間　昭和62年5月21日～同年6月12日

8　調査面積　600m²以上

9　調査方法　全面発掘調査

10　調査費用　費用総額1,610,000円　（全額委託者負担）

11　調査会の構成

会長　安藤　敏　更埴市教育委員会教育長

理事　田沢佑一　更埴市議会議員
佐藤穂次　更埴市教育委員会教育委員長
寺沢脩七　更埴市区長会長
相沢正幸　更埴市文化財保護審議会長
寺沢政男　更埴市役所総務課長

監事　武井隆義　更埴市社会教育委員会委員長
関　京子　更埴市役所会計課長

幹事　武井豊茂　更埴市教育委員会社会教育課長
山崎文夫　更埴市教育委員会社会教育係長
矢島宏雄　更埴市教育委員会社会教育主事
佐藤信之　更埴市教育委員会社会教育課主事

12　調査団の構成

団長　安藤　敏

調査担当者　佐藤信之

調査参加者　市川睦雄　牛沢一子　久保啓子　小林芳白　坂口城子　高野貞子
田中富子　田中宣子　村山　豊

事務局　武井豊茂　山崎文夫　矢島宏雄　佐藤信之　田中啓子　山根洋子（社会教育課）

信州大学附属図書館教育学部分館

II　調査の経過

昨年度に引き続き実施される市営住宅屋代団地の建設について、市教育委員会では昨年度の実績から、予定調査期間20日間、費用2,300,000円との調査計画書を作成し、1月10日、市建設課へ提出した。

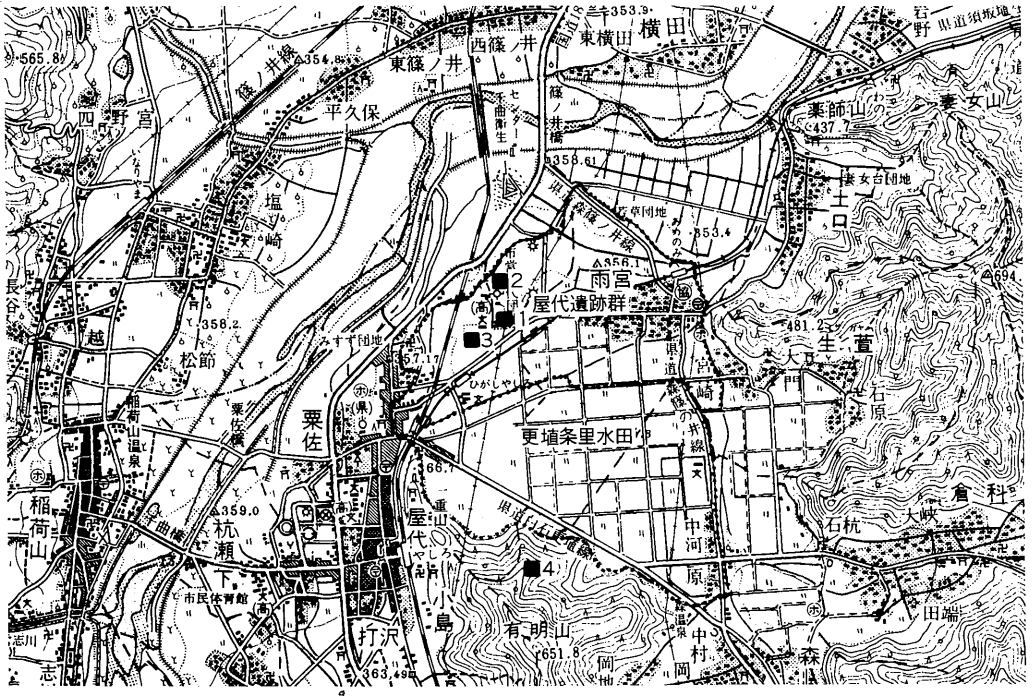
昭和62年度に入り、5月14日に57条の提出があり、5月16日、98条を提出した。5月20日、更埴市長と市遺跡調査会の間に、発掘調査業務の委託契約が締結され、翌日より重機が入り表土剝ぎを開始した。排土置場が確保できないため、2回に分けて行うこととし、西側を掘り下げた。5月22日より作業員が入り遺構の検出を始めた。

昨年の調査により畦畔の存在部分が想定できたため、重機により水田面直上まで掘り下げることができたため、6月12日、16日間で調査を終了した。そのため6月24日、委託契約の変更を行い、発掘調査費用を1,610,000円に減額した。

経　過

1月10日	調査計画書提出
5月20日	更埴市長と発掘調査委託契約の締結
5月21日	重機入り調査区西側の表土剝ぎ
5月22日	作業員入り遺構検出開始
5月26日	基準点測量実施
5月29日	遺構実測開始
6月4日	水田面を掘り下げ下部の遺構検出を行う
6月8日	西側の調査終了し東側を重機により掘り下げる
6月12日	現場における作業終了
6月24日	委託契約の変更

発掘調査日数　16日間
延べ作業員数　116人



1.北中原遺跡　2.城ノ内遺跡　3.馬口遺跡　4.森将軍塚遺跡
第1図　遺跡位置図（1／50,000）

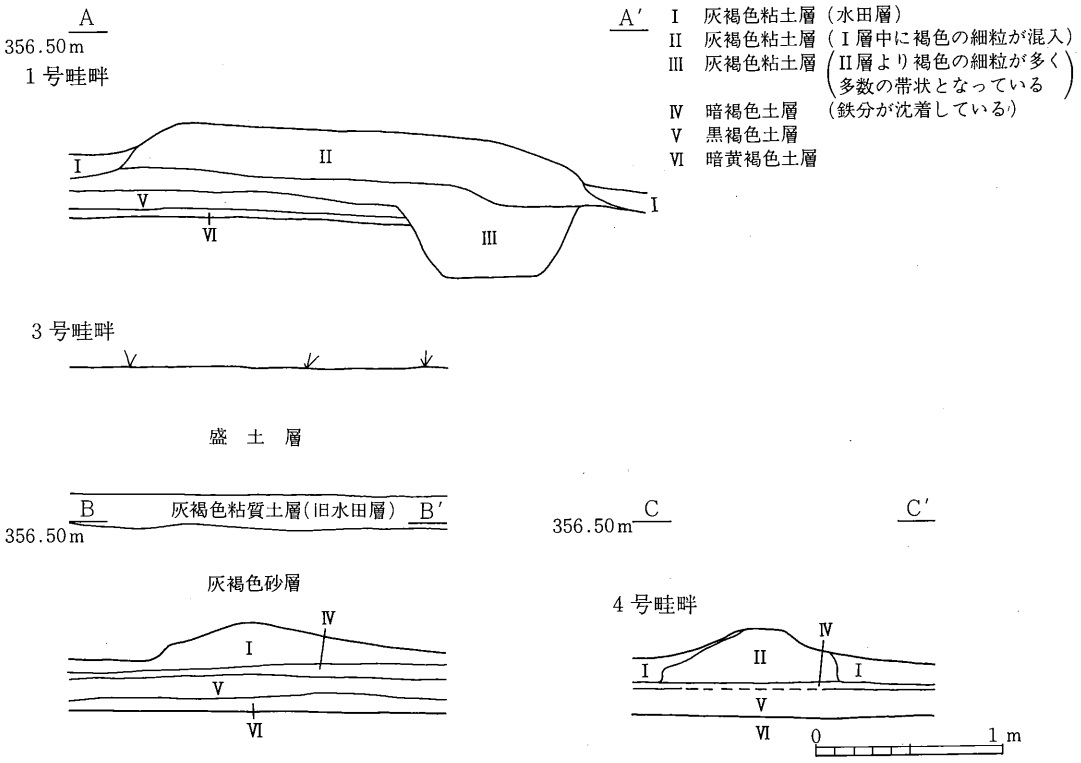
Ⅲ　遺構と遺物

調査区内は全面水田址となっており、検出された遺構はこの水田址のみであった。

1号畦畔

調査区のほぼ中央を南北に走る畦畔で、N－5°－W前後に延びており、昨年度の調査により北側20m付近で検出された1号畦畔の続きである。断面形は上面の平坦なカマボコ状を呈しており、底部幅約2.5m、上部幅約1.8mを測ることができる。また高さは西側で15cm、東側で25cmが測れる。上部は灰褐色粘質土によって構築され、下部は上部よりやや褐色の強い灰褐色粘土によって構築されている。また畦畔の下部東側には、畦畔構築土と同様の土を覆土とする逆台形の溝が1条掘られている。上部幅95cm、底部幅50cm、深さ35cmほどを測ることができるが、水の流れた痕跡を残していない。

畦畔構築土内からも僅かに遺物が出土しているが、遺物の多くは溝状の掘り込み内からであり、今回図示できた遺物は10を除き全てここからの出土である。1・2は内面黒色処理された土師器坏であり、1の底部はヘラケズリで仕上げている。3～6は須恵器の坏である。口径は13.5～15cmほどで、いずれも口径に対して器高が低いタイプである。底部が残存するものはヘラケズリが



第2図　畦畔断面図

施されている。7・8は土師器の甕、9は擬格子の叩きが施された壺の破片である。10は口径54cmと大形の甕で、頸部には1単位3本の波状文が2条巡らされている。平行叩きの施された胴部から大きく外反した口頸部は、短かく垂直に立ち上がり端部となる。この他に図示できなかったが、平行叩きが施された須恵器の大甕の胴部破片で、昨年度に1号畦畔下部の溝状の掘り込みより出土した遺物と接合できるものもあった。

3号畦畔

調査区西側で1号畦畔と平行して検出された畦畔で、N－5°－Wの方向に延びている。1号同様昨年検出された3号畦畔の南側にあたる。断面形は底辺の広い三角形に近く、幅約1.2m、高さ最大20cmを測ることができる。北側ではその存在を明確に確認できるが、南側では水田面と同化してしまい、僅かな高まりはあるものの水田面との区別は付け難い。また構築土も水田と同様であり区別しがたい。

トレンチを入れ畦畔の切断を行ったが遺物の出土はなかった。

4号畦畔

調査区北側で東西に走る畦畔として検出されたもので、N－86°－Eの方向に延びている。断面形はカマボコ状を呈しており、底部幅1m、水田面からの高さ18cm、基底部からの高さ30cmを測ることができる。構築土は1号畦畔同様灰褐色粘質土となっている。1号・3号畦畔と直交しているが、この内1号畦畔の西側では、幅50cmほどが切られていることから、水の取り入れ口があったものと思われる。

トレンチを入れ畦畔の切断を行ったが遺物の出土はなかった。

水田面

調査区全域に水田土壌である溶脱層が広がっており、乾田であったことが理解できる。水田面、特に畦畔沿いには、10～20cmの間隔で幅10cm、深さ5cm前後の浅い掘り込みが続いている。この畝状の掘り込みは明確な綾を持っておらず、原則的には沿っている畦畔に平行しているが、一部につながってしまう部分も見られる。いずれも畦畔から離れるにしたがって不明確となり、平坦になってしまう。

水田面の標高を比較すると、3号畦畔を挟んで西側と東側では5cmほど東側が低く、また1号畦畔の西側と東側では15cmほど東側が低くなっている。このことから灌水は西から東へと行われたことを示している。4号畦畔を挟んで北側と南側では、北側の水田面の検出が僅かのため明確ではないが、やや北側が低くなっている傾向が見られ、南から北への灌水が考えられる。

Ⅳ まとめ

昨年度に引き続き今回行われた北中原遺跡の発掘調査は、隣接する馬口遺跡の発掘調査結果と合せて、“更埴条里水田址”の解明に新たな成果があげられた。また同時に、問題点もいくつか提起するものであった。

今回の調査によって検出された遺構は、10世紀を前後する時期に約70cmの厚い砂層により一時期に埋没したと考えられる水田址である。水田を区画する畦畔が東西方向に一基、南北方向に2基検出された。昨年度検出され、今回その延長部分を検出した南北方向の1号畦畔は、屋代高校の校舎建設に伴う馬口遺跡で検出された水田址の畦畔との関係から、その距離107m（約60間）を測り、1町（60間）四方の「坪」を区画した畦畔と考えられるものである。同じく検出した南北方向の3号畦畔は、坪内を南北方向に長くほぼ5等分に区切った畦畔と考えられるものである。今回新たに検出した東西方向の4号畦畔は、坪内を細長く5等分したものをさらに、その中間で2等分した畦畔と考えられるものである。

北中原・馬口遺跡で検出された水田址は、12間×30間（約22m×54m程）の区画の水田であったものと考えられた。

しかし、部分的な調査のため多くの問題が残されている。特に今回の調査で推定された1号畦畔による坪の区画と、昭和30年代後半に調査が行われた第408地点等との南北方向の区画には、ずれが生じてくること。また、3号・4号畦畔による「半折型」と呼ばれる坪内の区画方法と、第408地点で6間×30間に20等分した「長地・半折折中型」と呼ばれる区画方法のちがいなどが、今回の発掘調査によって新たに提起された“更埴条里水田址”の大きな問題点である。

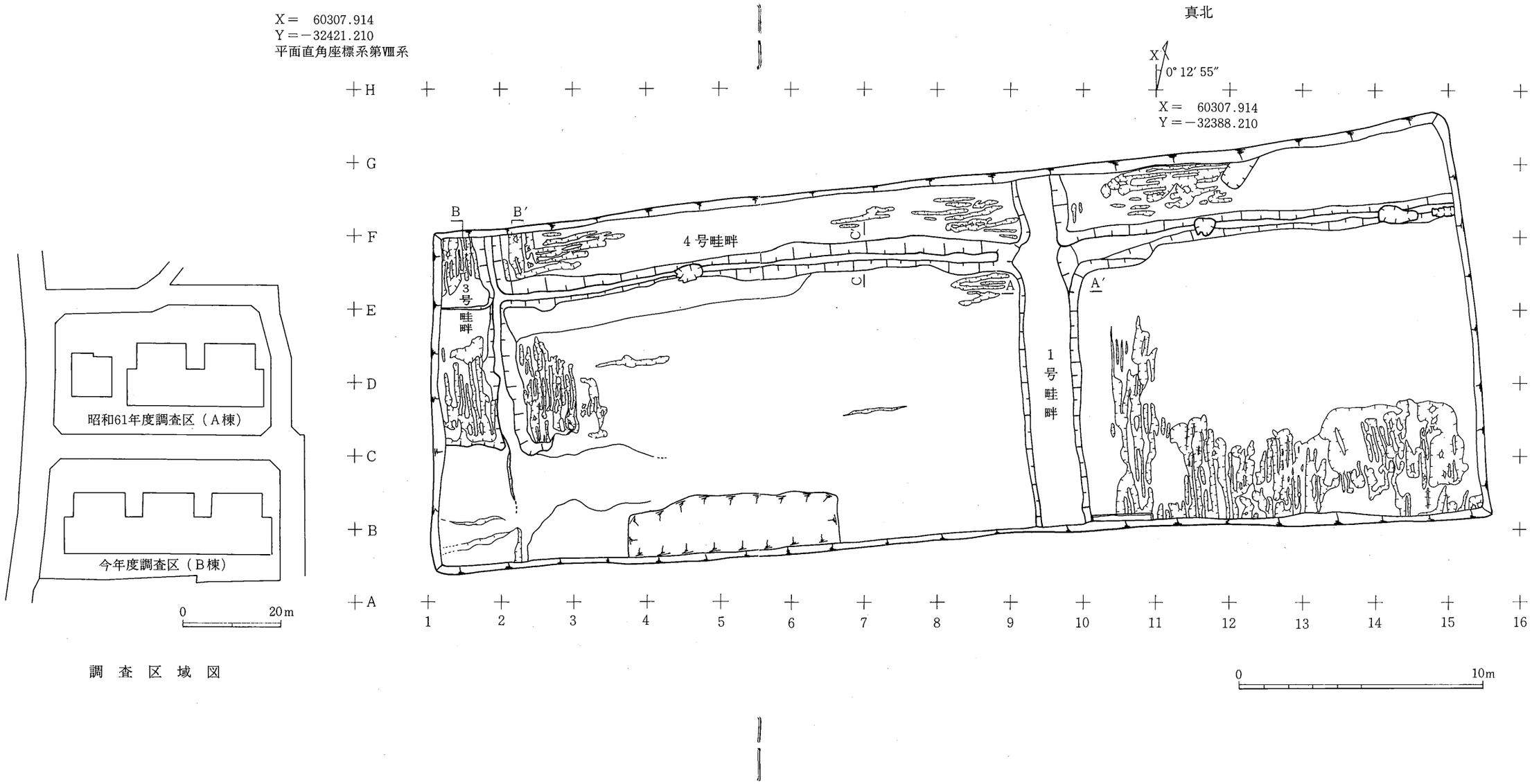
今回の発掘調査地点でも、昨年度の発掘調査地点同様に、本水田址より下層には他の遺構等は検出されなかった。本水田址がいつ開設されたものか、知る手がかりがみつからなかったわけであるが、これもまた本水田址の水利・所有・範囲等々のことと合わせ今後に残る問題点である。

最後に、本発掘調査にあたり、市営住宅建設の多忙の中、種々協力をいただきました市建設課はじめ関係のみなさまに厚く御礼申し上げます。

参考文献

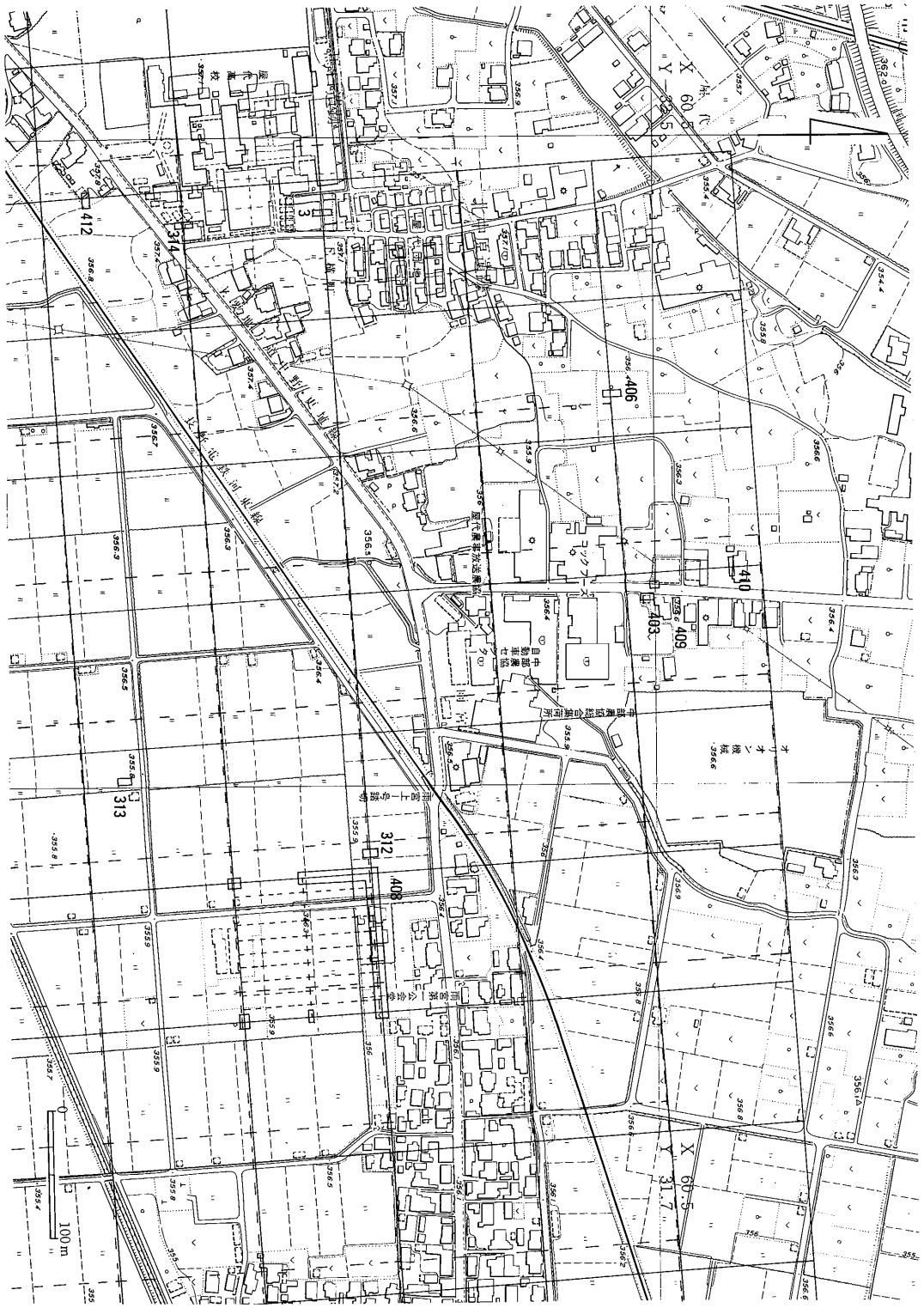
長野県教育委員会『地下に発見された更埴市条里遺構の研究』　1968年
更埴市教育委員会『屋代遺跡群　北中原遺跡』　1987年
更埴市教育委員会『屋代遺跡群　馬口遺跡』　1986年
更埴市教育委員会『屋代遺跡群　馬口遺跡II』　1987年
更埴市教育委員会『屋代遺跡群　馬口遺跡III』　1988年

図版１　発掘調査全体図

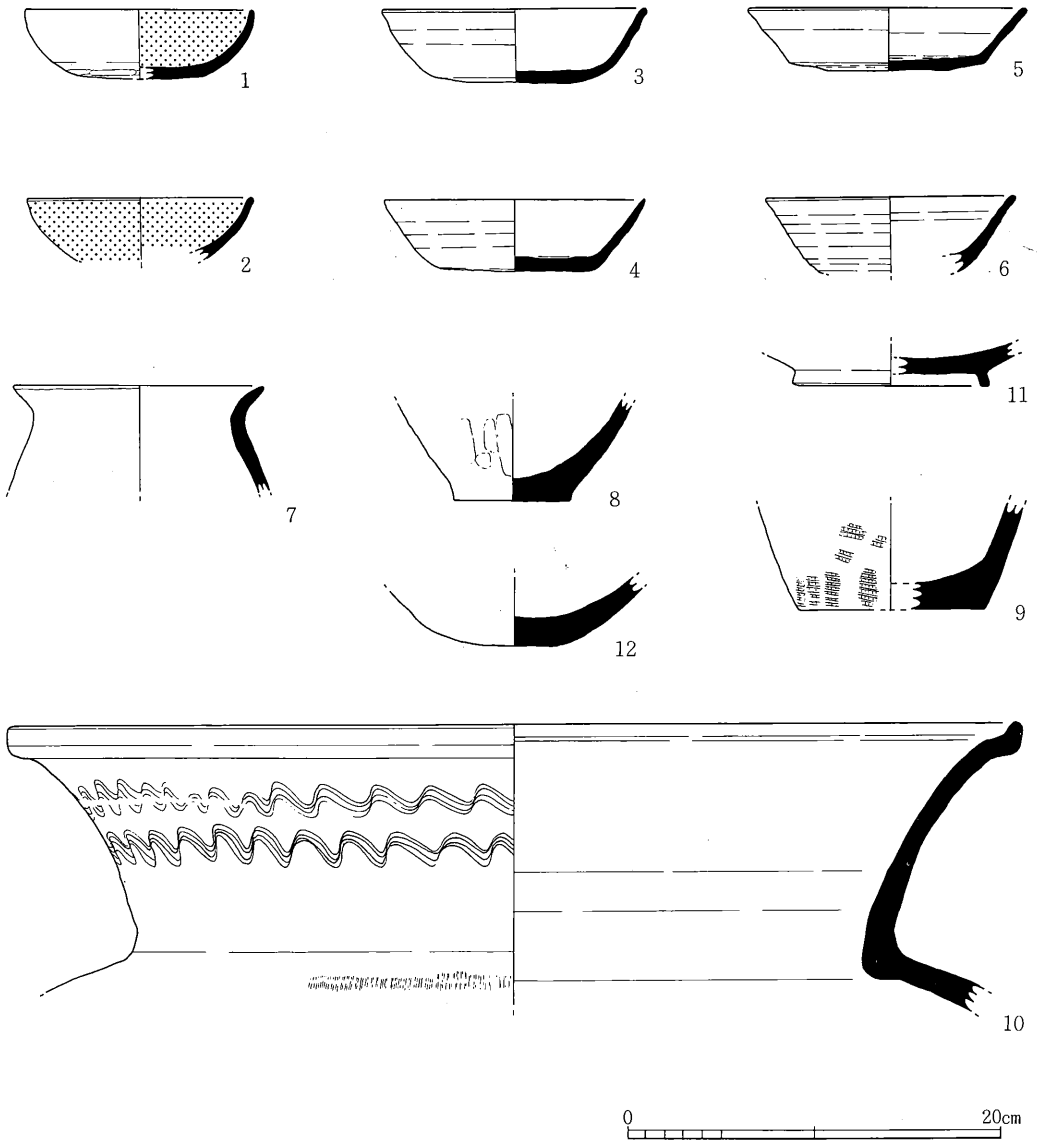


調　査　区　域　図

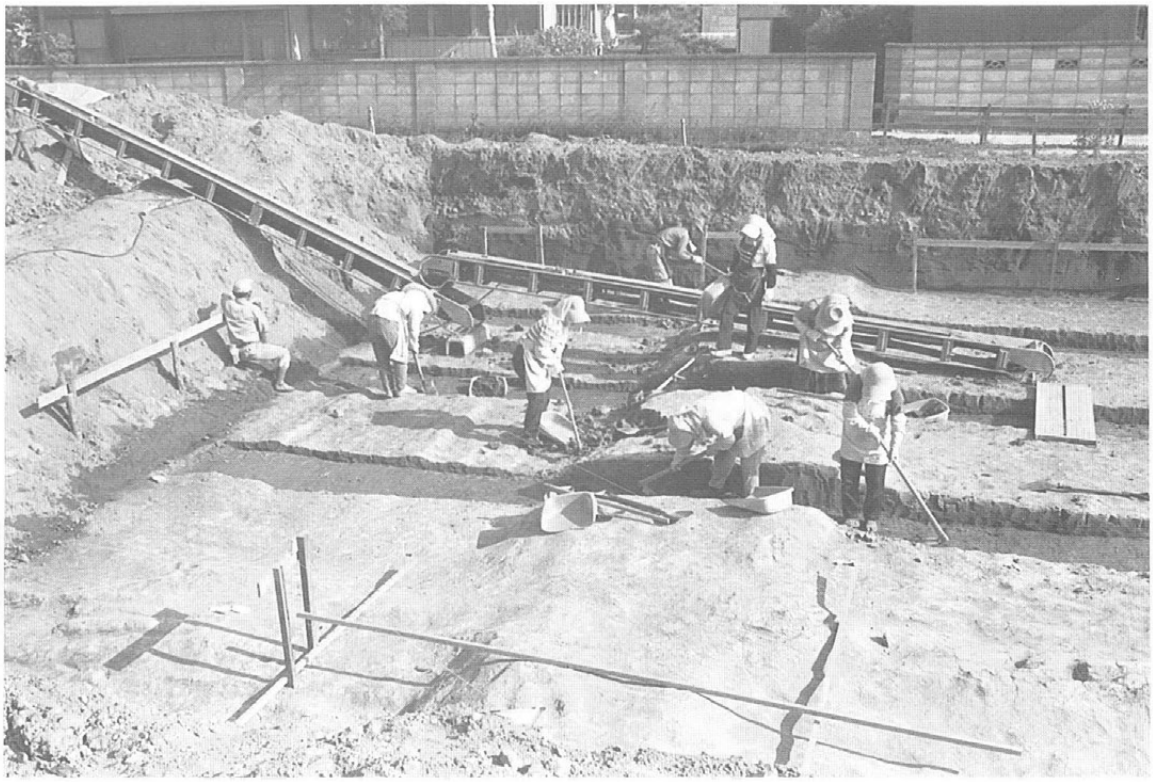
図版２　坪割図



水田址面出土遺物

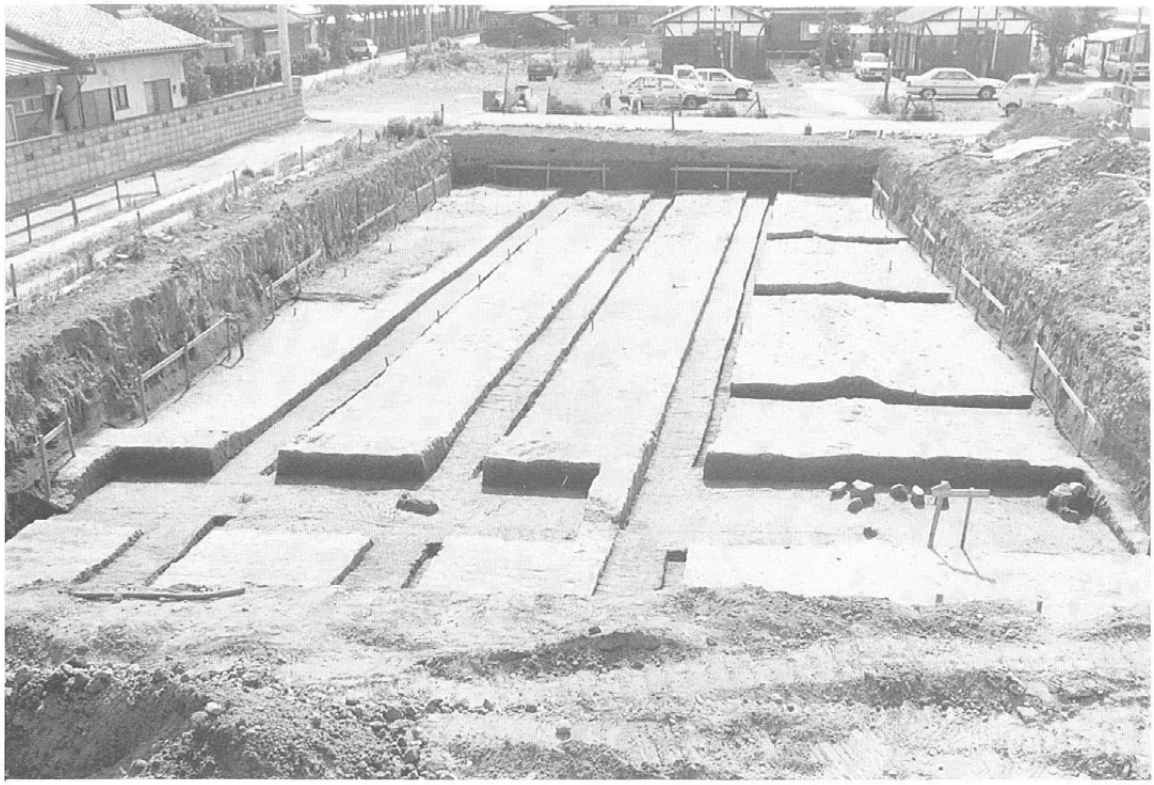


図版４



発掘調査風景

調査区西側全景

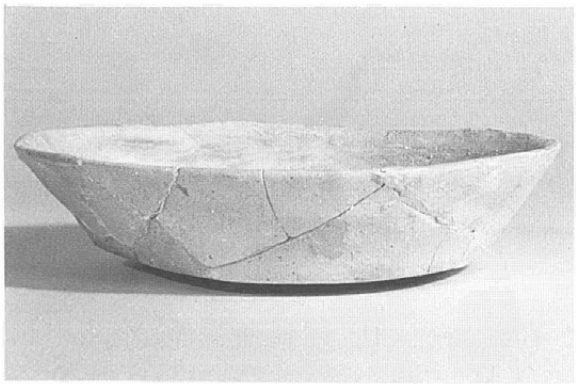


調査区西側水田下部の遺構検出

1号畦畔断面

図版６

調査区東側



水田址出土遺物

屋代遺跡群 **北中原遺跡** II —市営住宅屋代団地建設に伴う発掘調査報告書—

発行日　昭和63年３月31日
編　集　更埴市遺跡調査会
発　行　更埴市教育委員会
〒387　長野県更埴市大字杭瀬下762－２番地
ＴＥＬ（0262）73－2791
印　刷　ほおずき書籍株式会社
〒380　長野市中越293
ＴＥＬ（0262）44－0235